

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教育学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 教育学部設置認可申請において示した教育学部の理念・目的の学生及び教職員への周知を徹底する。	→「学部入学式、チャペル、各種実習のガイダンス、就職セミナーなどにおける学部の理念・目的の周知徹底の頻度」	B
2. 学部の理念・目的について、その周知方法の適切性を評価分析する。	→「学部長室委員会及び学部広報委員を中心にして、周知方法の改善策の検討頻度と進捗状況」	C
3. 学部完成年度以降の将来ビジョン策定において、学部の理念・目的の再検討を行い、新たな設定を行う。	→「学部の将来ビジョン委員会における2013年度以降の学部再編計画および理念・目的の検討状況」	A
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

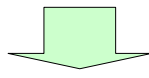
☆ 小項目0.0.1	<p>(理念・方針) (学部の理念・目的) 教育学部は、関西学院大学の理念であるキリスト教主義による人格陶冶を踏まえ、その教育のキーコンセプトとして「実践力」、「教育力」、「人間力」を据える。「実践力」とは、幅広い教育現場で、強い情熱、子どもへの愛情、優れた指導力を持って、実践にあたることのできる資質である。「教育力」とは、高い使命感と確かな知識と力量を持って、子どもへの教育と支援ができる資質である。「人間力」とは、総合的な判断力と視野の広さ、思慮深さ、豊かな人間性と人権意識、さらに豊かなコミュニケーション能力を持ち、それを実践に役立たせることのできる資質である。こうした3つの「力」を持ち、「子ども理解」を基礎に現代の複雑で困難な教育問題に向き合うことのできる「教育者」を育てることを教育学部の教育研究の目的とする。</p> <p>(幼児・初等教育学科の理念・目的) 幼児・初等教育学科においては、「子ども理解」を基本理念として、知的な教授・学習にとどまらず、心の側面を含めた全人的人間理解を持って教育を行うことを目指し、「実践力」、「教育力」、「人間力」を兼ね備えた優れた幼稚園教員、小学校教員、保育士を養成することによって、教育者養成のニーズと地域社会の要請に応え、質の高い教育実践に貢献することを目的とする。</p> <p>(臨床教育学科の理念・目的) 臨床教育学科では、学校現場での様々な問題や困難に対応するため、「子ども理解」の基礎となる教育学（教育人間学、教育方法学、教育社会学）の知識と方法に教育相談と特別支援教育の知識と技術を加えて、子ども、保護者、教師の支援の在り方の研究開発とその実践を行う。このことによって、教育上の諸課題に対する支援と問題解決を目指す教員ならびに実践家を養成し、教育者養成のニーズと地域社会の要請に応え、質の高い教育実践に貢献することを目的とする。</p> <p>(現状説明) 学部入学式、チャペル、各種実習のガイダンスなど学部の理念・目的の周知徹底を行っている。</p>
------------	--

☆ 小項目0.0.2	(現状説明) 周知のための方策は検討したが、改善策までは検討できていない。
☆ 小項目0.0.3	(現状説明) 2009年度の将来ビジョン委員会を7回開催し、将来ビジョン委員会答申をまとめ、2010年2月の教授会で承認された。そのなかで、新しい学部の理念・目的を提案している。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
☆ 小項目0.0.3	学部の将来ビジョンについて一応の方向性を出すことができた。
その他	



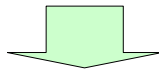
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
☆ 小項目0.0.3	2010年度も将来ビジョン委員会を継続し、教員懇談会での議論も含めて、学部将来ビジョンを策定する。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目0.0.1	各種行事間の調整が必要。
小項目0.0.2	改善策の具体的な検討が必要。
☆ 小項目0.0.3	学部全体としての議論が不十分であった。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目0.0.1	各種行事間の調整を行う。
小項目0.0.2	改善策の具体的な検討を行う。
☆ 小項目0.0.3	教員懇談会開催や各種WGの設置。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○学部の理念・目的の周知方法の評価・改善について、具体的に検討が進められることが望まれます。

【学内委員】

○開設までに、教育学部教員予定者にどのように理念を周知されたか、など、現時点での評価を記述することが望まれます。
○進捗評価は、目標達成を基準に行われます。現在の時点で、既にAである将来ビジョンの策定については、より進んだ目標を設定することが期待されます。
○完成年次以降の学部再編に向けた新たな取り組みが必要となるかと思われます。また、文部科学省の動きに応じた取組も必要になるかと思われます。現在の理念の周知と共に新たな検討を期待します。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 0.0.2「現状説明」を下記のように修正。
(現状説明) 新たに就任する教員については、就任前にガイダンスを行った。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

0.0.0.S1	本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価
0.0.0.S2	卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
0.0.0.S3	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
0.0.0.S4	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
0.0.0.S5	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
0.0.0.S6	本学出身でキリスト教関連活動に従事する者(牧師を含む)の数
0.0.0.S7	理念の周知について(1)ー理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
0.0.0.S8	理念の周知について(2)ー総合コース「『関学』学」の履修者数

<個別的な指標>
